

郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年10月26日現在

今月の重点活動

■スマート農業 アシストスーツ着用しての収穫出荷作業を調査

10月13日、農業普及課が中心となって「ひるがの高原だいこんスマート農業実証」にて導入したアシストスーツを着用してのだいこん収穫・出荷作業時の効果を調査した。

収穫では、実証経営体である(株)エスタンシアの作業員7名がアシストスーツを着て早朝から作業を行った。作業員からは「腰の負担が軽くなる」という感想がある一方で、「動きにくい」「暑い」「重い」という意見もあった。出荷作業では、10kg入り段ボールをパレットに載せる作業を行った女性従業員からは「いつもより負担が減って楽にできた」という感想も得られた。

農業普及課では、今回の調査結果を分析しコンソーシアムでの検討を行うなど、スマート農業の実証に取り組んでゆく。



【アシストスーツを着用して作業】

多様な担い手づくり

■担い手リーダー 農業大学校生を受け入れ

新型コロナの影響で、受け入れが遅れていた県農業大学校生の地元農家への派遣学習が9月から11月にかけて実施されている。

今年度は、1年生1名（畜産専攻）が9月28日から1週間、2年生2名（野菜専攻、畜産専攻）が10月5日から1か月間、郡上市内の青年農業士や女性農業経営アドバイザーのもとで研修を行う。

農業普及課では派遣先との調整のほか、2年生の1名は研修先での就農も視野に入れて実践的な研修を行っており、新たな農業者の誕生につながるよう関係機関とともに就農に必要な支援を進める。

売れるブランドづくり

■水稲 今年もやります！おいしい米コンテスト

農業普及課では、良食味米の生産による郡上産米のブランド化を支援しているが、その一環として平成27年から毎年「郡上おいしい米コンテスト」を市農業振興協議会とともに開催してきた。

コンテストは回を重ねるごとに参加者が増えており、今年は新型コロナの影響で内容を一部縮小するものの、開催に向けて市やJA、農業普及課にて準備を進めている。

コンテストは10月5日より出品米の受付を開始し、農家への参加を呼び掛けるとともに、11月15日の表彰式では出品米の競売会も企画していることから、並行して米の入札参加者を募っている。

農業普及課はコンテストの企画・運営のほか、出品米の食味分析やランク付けを担当するが、得られたデータをもとに郡上産米のブランド化に生かす予定である。



【米コンテストのチラシ】

■夏秋トマト 郡上トマトの学校運営に係る視察

10月13日、「JAめぐみの郡上トマトの学校」の関係者で、夏秋トマト3Sシステム導入に向けた検討と同じ新規就農者の研修施設である「JAひだ飛騨地域トマト研修所」との情報交換を行うため、3Sシステムを開発した中山間農業研究所等の視察を実施した。

3Sシステムは、トマトの生理的な面を学ぶことができ研修教材としても就農後の土耕栽培に役立てる点で、導入メリットが大きいことを確認した。

一方、研修所では研修終了後に計画どおりの経営が出来ていない卒業生に対し、どのような指導が適切であるか共通する課題に対して意見交換もでき、有意義な視察となった。

農業普及課では、郡上トマトの学校の関係機関の一員として研修体制の充実を図り、新規就農者の育成・確保に取り組む。



【3Sシステムの視察】

■だいこん スマート農業実演会を開催

10月26日、「ひるがの高原だいこんスマート農業実証コンソーシアム」でのスマート農業機械の実演会が、地元のだいこん生産者や郡上市農業委員など約80名を対象に開催された。

当日は、実証で導入したりモコン草刈機やGPS搭載乗用管理機などが実演・展示され、自動運転トラクタと直進アシストトラクタでは実証経営体である(株)エスタンシアの女性従業員が操縦、初心者でもすぐに作業ができることをPRした。

農業普及課は、コンソーシアムの進行管理役として実演会の企画や運営を行ったが、今後、参加した農業者等から意見を聞き取るなど産地への普及に向け実証結果の分析を進める。



【自動運転トラクタの実演】

■切花 トルコギキョウ品種検討及び反省会を実施

10月末のトルコギキョウ出荷終了を前に、今年度の栽培の概況を振り返り、次年度の作付け品種を検討するため、ひるがのフラワーサークルが10月22日、反省会を開催した。

はじめに農業普及課から、今年度の気象推移と病虫害や生理障害など栽培管理上で問題となった点を整理し、次年度の留意事項について説明した。

品種の作付け計画では、各生産者の定植予定をもとに時期ごとの需要を見据えて、花色の構成など問題がないか確認を行った。

農業普及課では、本年の栽培結果を踏まえ次期作付け予定の各品種に応じた栽培技術の普及など、一層の産地ブランド力の向上に向けた支援を行う。



【品種検討中の部会員】

■南天 市場出荷に向け作柄状況調査を実施

郡上八幡南天生産組合は、全国でも数少ない市場向け産地であり、毎年、出荷が始まる12月を前にその予測情報を市場関係者に提供している。

組合では、正確な予測情報を提供できるよう2年前から市内15カ所に調査ほ場を設置しており、10月26、27日には組合役員と農業普及課で作柄状況調査を実施した。

本年は7月上旬の長雨により、開花盛期に日照時間が1日平均40分にも満たない日が続き、多くの株が結実不良となっており、生産者からも過去最悪との声が聞こえる中での調査であったが、残念ながらそれを裏付け結果となった。

農業普及課では、毎年おこる異常気象に対応すべく、実生による株更新の割合を増やす等、一斉に開花期を迎えない技術の普及を検討する。



【組合役員による調査】